

とっとり

vol. **21**
2024.10

スポーツ × 地域づくり





特集

4 スポーツ×地域づくり



東部

NPO法人
鹿の助スポーツクラブ

中部

NPO法人
倉北ユナイテッド



西部

NPO法人
米子ローイング協会



高校生ing

10 地域の伝統技術を活かして 智頭の魅力アップ



鳥取県立智頭農林高等学校

「総合型地域スポーツクラブ」とは

「だれでも」、「いつでも」、「どこでも」「自分のペースで」スポーツを楽しむことができるように、地域の身近な施設を有効活用しながら、そこに住む地域のみなさんが主役となって管理運営するクラブのことです。これまで、「スポーツをしたいけどできなかった」「自分のレベルにあった活動ができたらいいいの」と思われていた方たちが、もっと気軽にスポーツに取り組めるような垣根の低さを持っています。

また、地域の人々がクラブを通じて交流することで、近年薄れつつある地域社会の活性化（まちづくり）にもつながります。

■出典／鳥取県ホームページ「とりネット」より
<https://www.pref.tottori.lg.jp/126169.htm>

当センターは、「ミラ・クル・とっとり運動」を推進しています!

「ミラ・クル・とっとり運動」とは、県内の活動者が互いにつながりあい、それぞれの活動の活性化と地域課題解決の推進を目指す運動です。運動に参画する個人・団体同士がフラットに、ゆるやかにつながるネットワークとして、「ミラ・クル・とっとりプラットフォーム」を展開しています。



スポーツを入り口に、 地域に繋がりをつくる

少子高齢化や人口減少に歯止めが利かず、地域のコミュニティはこの数十年で大きく様変わりした。薄れた人と人とのつながりを、スポーツをきっかけにしてつくっていかうと2023年に立ち上がった「にちなんスポーツクラブ」。小学校や子ども園を訪ねる草の根運動をはじめ、さまざまなスポーツに触れる機会をつくっている。地域においてスポーツがどんな役割を果たすのか。長年待ち望んだ総合型地域スポーツクラブを立ち上げた代表の足羽覚さんと事務局長の青戸武さんに話をうかがった。



にちなんスポーツクラブ
事務局長

青戸 武さん

にちなんスポーツクラブ
代表

足羽 覚さん

念願の総合型 地域スポーツクラブを設立

真夏の八月。日南町体育館では、夏休み企画としてサッカー女子元日本代表の大部由美さんを招いた「ウオーキングサッカー&スポーツフェスタ」が開かれ、子どもから大人まで元氣よく楽しむ姿があった。主催するのは「にちなんスポーツクラブ」だ。

「実は、十数年前から総合型地域スポーツクラブを作りたかったんです。スタッフの負担も大きいし、なかなか協賛体制が築けなかったのが、ようやくです」



そう話すのは、代表の足羽さん。若い頃から陸上に親しみ、町のスポーツ推進員を長年勤めてきた。中学校の部活動の地域移行が進む流れもあり、立ち上げの機運が高まっていたところに、陸上の教

え子だった青戸さんが協力すると手を上げた。

「私の時は同級生が80人いたのが今は20人ほど。野球部もなくなり、サッカーも部員が0人に。子どもたちの選択肢は確実に減っていて、できるだけ格差がないようにしてあげたいですね」

スポーツに慣れ親しむ機会を

足羽さんは、子どもたちの遊び方も変わったことで、運動能力も変わってきたと心配する。

「今は幼い頃から何か一つのスポーツに特化してそれはやりやすくて多くなつた。でも、子どもの頃はいろんな種目をやってみるのがいいと思うし、昔は外で遊びながらいろんな動きを身につけたもの。川で石を渡った動きを、今はバランスストーンを置いてやっています」

子どもたちが様々な運動をする機会を作ろうと、月2回「放課後運動遊びクラブ」を開催するほか、3つあるこども園では年16回にわたってサッカー、陸上、ノルディックウォーク、運動遊びなどを体験してもらっている。

「子どもだけでなく、高齢者向けには、地域の百歳体操等に出向き、ストレッチ体操をしたり、ポッチャなどのニュースポーツも楽しんでもらっています」

少しずつ町民がスポーツに触れる機会を増やしている。

地域がつながるきっかけに

面積の広い日南町はかつて小学校が8校あったが統合して1校になり、子どもたちと地域のつながりは格段に少なくなつたと、青戸さん。

「学校の先生と親だけでない地域の大人と触れ合う機会が多かつたんです。私自身が足羽さんに教えてもらつたり、陸上大会に連れて行ってもらつたり。そういうのがおもしろかつた。そういう機会が子どもたちの社会性を育てるんじゃないかなと思うんです」

スポーツは地域の中で人をつなげるきっかけの一つだった。足羽さんや青戸さんはそれを知っているからこそ、今の時代にも必要なものだとし、にちなんスポーツクラブを立ち上げた。

「子どもから大人までみんなが楽しみながら輪を広げていきたいです。最近では町の家庭教育支援チームの方から「一緒にしましょう」と言ってもらえるなど、だんだんと各方面から声をかけていただくことが増えました。将来的にはスポーツをしな



い時も集まってみんなが触れ合う場所をつくりたいです。勉強を教える場になつてもいいし、料理教室をやる場になつてもいい。人がつながり、笑顔が溢れるまちになつたらいいですね」

取材日の翌日には、境港市で砂浜トレニングやビーチバレーを実施。「もう暑くて大変だけど、去年もやって好評だったんですよ」と笑う二人。にちなんスポーツクラブの挑戦は続いてゆく。

一般社団法人 にちなんスポーツクラブ

所在地/日野郡日南町生山450番地
連絡先/電話:足羽/090-8606-3135
青戸/090-7597-4390
メール:nichinan.sc@gmail.com
Webサイト/https://www.facebook.com/nichinan.sc

facebook



Instagram





スポーツ

やりたい!を形にする地域のハブに

[東部]NPO法人 鹿の助スポーツクラブ



地域づくり

こんなことがやってみたい、と思うときに、助けてもらえる存在がいると、その衝動が形になりやすいのかもしれない。地域の中でそのような存在を目指し、総合型地域スポーツクラブとして活動しているのが鳥取市のNPO法人鹿の助スポーツクラブ。スポーツ施設の指定管理をしながら、運動教室や体験教室、マラソン大会の運営をしている。5年前には女子軟式野球チームを発足するなど、活動の幅を広げている。

地域のスポーツを守ろう

「うちが指定管理を取らなかつたら、地域から運動施設がなくなるかもしれない。その危機感がありました」

そう話すのは、鹿の助スポーツクラブの代表理事、谷口一真さん。2017年にNPO法人となり、2018年からは鳥取市の旧3町（気高、青谷、鹿野）のスポーツ施設指定管理を受けた。活動はさまざま。日常的なものとしては、ヨガ、ダンス、親子リズム体操など各教室を月1回開くほか、地元のマラソン大会「鷲ヶ山麓ハーフマラソン大会」を2022年から開催。マラソン愛好家が利用するラン

ニングサイトで全国6位、西日本2位の評価を受けた人気大会になっている。



谷口一真さん

「地域の人が握ったおにぎりの提供や太鼓の応援など、あたたかな大会という評価をいただいています。もともと鷲ヶ山走破や鹿野往来マラソンなどいろんな大会があったのですが、それがなくなってしまう、新しいマラソン大会をやりたいという声が上がったんです」

地域の中から「それなら鹿の助に相談してみたら?」と相談を受けて開催に至るなど、誰かの「やりたい」を形にしてきた。

女子軟式野球チームの誕生

県内では当時初となる中学女子軟式野球チーム「鳥取ディアーズ」を5年前に立ち上げた。「きっかけは、娘さんが野球をしているお父さんが、中学に上がる娘が野球を続けたいけどな





んどかできないかという話でした。少子化でクラブがなくなるなどスポーツをやる環境はよくありません。女の子で野球をやりたい人の受け皿になればいいと思います」

最初は5人しか集まらなかつたが、一昨年は20人近くに増員。ホームページを見て兵庫県の但馬地方、倉吉市など遠方からも入団する人がいて、全国大会の初勝利を目指している。3年前には地元で大会を開催し、近隣県から出場してくれるチームもいる。

「マイクパフォーマンスで選手それぞれのキャッチコピーを考えてもらい、会場は盛り上がりました。屋台にも出てもらい、地元の人たちに見に来て、楽しんでもらう大会を目指して始めました。ディアーズもそうですが、地域の中で何か困ったことややってみたいことがあった時、相談相手として認識され始めているのが嬉しいですね」

夢中になるものを持つまちに

地域の中で認識され始めた一方で、中長期的にみると運営方針を迷うこともある。

「このまま今の形で続けていくのか、舵を切るべきか。今の

指定管理もずつとあるわけではなく、収益の柱をどうしていくかは常に考えますね。利益優先になつては本来の目的も見失ってしまふし、ジレンマはあります」と、谷口さんは話す。

その課題と向き合っていくためにも、自分たちが信じる道の先を目指すことも大事だと感じている。それは地域の中で、人と人をつなげたり、誰かの背中を押ししたり、そうすることでまちを盛り上げていくことだ。

「みんなのやりたいと思うことを手伝う、地域の中のハブであれたらいいなと思っています。子どもたちだけでなく、親もスポーツを楽しんでほしいです。それぞれが自分のやりたいこと、夢中になれるものを持つ。そんなまちがいいなと思っ



特定非営利活動法人 鹿の助スポーツクラブ

所在地／鳥取市鹿野町鹿野342
鳥取市鹿野町農業者トレーニングセンター
連絡先／電話：0857-84-2131
メール：shikanosukes@gmail.com
Webサイト／https://shikanosukes.com/

Webサイト



facebook



Instagram



ています。それはスポーツでなくともいいかもしれないし、スポーツは一つのきっかけとして夢を応援していく団体でありたいですね」

できることをコツコツと。地域の未来を見据える、その目は真つ直ぐだ。



スポーツ 学校と地域をスポーツでつなぐ

[中部]NPO法人 倉北ユナイテッド



地域づくり

スポーツを通じて学校と地域をつなぐ活動を開始したNPO法人倉北ユナイテッド。今後は様々な競技にも取り組み、子どもから高齢者までが集う地域スポーツの拠点づくりを目指している。これからのようなビジョンを描いて地域と共に歩んでいくのか、倉吉北高等学校の教諭でサッカー部監督、また倉北ユナイテッドのクラブマネージャーでもある下屋敷恒太郎さんにお話をうかがった。

スポーツをもっと楽しめる環境を

夕方の運動公園でひと際大きな声を出して高校生を指導しているのは下屋敷さん。プロサッカー選手からNPO法人のスタッフ、そこから中学校の教員を経て、今は高校の教員をしながらNPO法人倉北ユナイテッドを立ち上げ、活動をしている。部活動でサッカーを指導することを目標に公立中学校の教員になった。しかし働き方改革の影響もあり部活動の時間は減っていった。「部活の時間が減って子どもたちも可哀そうだな」と。都市部であれば部活以外にもクラブチームがあります。ただ、鳥取はクラブチームもそれほど多くありません。あつたと



下屋敷恒太郎さん

しても経済的な理由や移動手段がない、校区じゃないなどの理由で通えない子もいます。そういう子たちももっとやりたいと思ったらその希望を叶えられ、そういった場をつくりたいと思いました」

学校を拠点に広がる地域スポーツ

高校に赴任してきて、まずは個人の活動として部活動を引退した中学校3年生を対象に、サッカーを通じて体を動かす企画を不定期で開催してきた。

「参加者に好評で定期的開催することになりました。この活動がきっかけで、その後3人の学生が倉吉北高校のサッカー部に入ってくれました」
その後学校の協力も得てNPO法人を設立した。

「総合型地域スポーツクラブでスタッフをしていた時から、スポーツを通じて地域を盛り上

げることが面白いなと思っていました。中学校の教員になってからも学校が持つ施設などを地域の人も使ってもらえるようにすることで、子どもたちと地域の方が触れ合う拠点になるんじゃないかとずっと考えていました。部活の地域移行の話もありますが、まずはこうした活動を積み重ねることで連携しているんじゃないかと思っています」



学校と地域がWin Winに

地元の社会人サッカーチームに所属しながら倉北ユナイテッドで学生と一緒にサッカーをしている福井武瑠さん。

「仕事があるので社会人チームも練習の人数が揃わないことがよくあります。倉吉北高校のサッカー部も当初部員が少なく、だったら一緒に練習をしようということになりました」
単に人数をカバーし合うう





福井武瑠さん

けではなく、一緒にプレーをすることには他にも意味があるという。

「学生側は社会人とプレーすることで上達したり、他にも社会に出たときに必要な大人とのコミュニケーションの仕方を学んだりできると思います。一方で我々社会人側も高校生や中学生の一所懸命でひた向きな姿勢をみると、勇気づけられますし、振る舞いもしつかりしないとけないなど。お互いにとっていい刺激になっていると思います」と福井さん。

下屋敷さんが思い描くのも学校と地域が共にスポーツをつうじてつながる姿。将来は高校の施設を使って、子どもからお年寄りまでいろんな方がそこを拠点に集まって、楽しめるような空間を作っていくつもりだ。

「例えばグラウンドにスタンドを作って、高校生が試合の時に地域の方が集まって応援する。昼食は調理科があるのでそこで

作ったものを振る舞う。グラウンドが空いているときには地域の方がグラウンドゴルフやウォーキングをしたり、地域と学校がスポーツでつながり交流することで、子どもたちにとっては学びや成長、地域の方にとっても一緒に地域の子どもたちを育てる感覚で関わってもらい、それが出番づくりや自己有用感などにもつながってほしいなと思っています」



特定非営利活動法人 倉北ユナイテッド

所在地／倉吉市福庭町1丁目180番地
 連絡先／電話：0858-26-1351
 メール：kotaros@kurayoshikita-h.ed.jp
 Webサイト／倉北ユナイテッド ホームページ
<https://sgrum.com/web/kurakita-united2024/>

Webサイト



スポーツには、さまざまな力や魅力がある。厳しい練習で自身に挑戦したり、年齢を超えて生涯楽しんで、人と人がつながり合うきっかけになったり。米子市の中海を中心に長年活動を続けてきた米子ローイング協会は、数年前から障がい者にも競技を楽しんでもらえるようにし、パリパラリンピックに出場した森卓也さんがローイング競技を始めるきっかけを作った。競技を通して年齢も、障がいも、それぞれの違いを超えてつながりを生んでいる。

ボートをもっとみんなに開こう

青空が広がる夏の中海には、障がいを持つ人や高校生、さまざまな人がボートを漕いでいた。そこには早朝から選手らのサポートをしている米子ローイング協会理事長の杉村正男さんの姿もあった。

「協会の歴史は長いんですよ。昔は漕艇協会という名前ですね、先輩たちによって80年くらい前、1946年（昭和21年）に作られた。でも、ずっと高校で競技をやってきたOBが中心で、どちらかといえば競技経験者の中でのしか広がりがなかったんです」



杉村正男さん

協会が変わってきたのは、NPO法人になった15年ほど前。限られた競技経験者だけでなく、幅広い人たちに窓口を開いていこうと決めてからだという。地元企業に協賛を募り、現在、協賛企業が13社。誰でもきてもらえる体験会を開くなど、その距離を縮めてきた。

パラスリートの挑戦

5年前からパラスポーツにも挑戦した。

「なかなか自分たちに余裕がなかったからできなかったけど、ずっと思っていたこと。パラスポーツでも楽しんでもらう場を作りたかった」

専用のボートを2艇購入し、毎年一回パラスポーツ体験会を開催。そこに参加したのをきっかけに競技に挑戦したのが、パリパラリンピックに出場した森卓也さんだ。砲丸投げで東京パ

スポーツ 障がいも、年齢も、 すべてを超えてつながろう

[西部]NPO法人 米子ローイング協会

地域づくり





「リハビリ期間中にローイングの練習も取り入れていたのと、体験会に参加してみたのがきっかけでした。100m漕いだだけでももうやめたくなくなるほどしんどいけど、自分が試されるところがある。また挑戦してみようかなという気持ちになった」
取材日は、県外選手と合同



森 卓也さん

ラリンピック出場を目指していたが、右肩を痛めて手術。肩から上に力を入れる動作ができなくなったが、水上で新たな挑戦をしている。

練習会を行なっていた。

「こうやって仲間が増え、しのぎを削るのもスポーツがあってこそ。人生が変わった」と森さんは話す。

「普通は家と仕事の往復で、その人間関係だけ。スポーツを始めている人々な人とのつながりは10倍くらいになった。外に出るきっかけにもなるし生活面でもプラスになる。本当に世界が広がりました」

多様性の世の中で競技を浸透

ローイングは一つのきっかけにすぎない。知ってもらう、やってみてもらおう。その中で誰かの向上心に火を灯すかもしれないし、人が楽しく過ごせる居場所になるかもしれない。その種まきはたくさんしてきた。



「これまでキッズチャレンジ

ローイングは35回してきましたし、新しく親子deスポーツというのをはじめました。大会を開いて人に集まってもらおうと中海穴道湖全国小中学生交流レガッタも7回開いていて、中国、近畿地方から出場してくれるチームがあり、交流が続いています。地元が誇る中海という環境を生かし、競技の魅力をたくさんの人に届けたい」と杉村さん。

その頭には思い描いている光景がある。

「この恵まれた中海で、誰もがやってきてはわいわいと漕げる。それが大きな夢としてあるんです。いろんな人がいて多様な社会になってきたと思います。そこに生きる人全てを包み込み、一緒に混ざって楽しめる。そんな場を作っていきたいですね」



特定非営利活動法人 米子ローイング協会

所在地 / 米子市西町133-1
連絡先 / 電話 : 0859-21-2257
メール : yonago_boat_475@yahoo.co.jp
Webサイト / <https://yonagorowing.com/>

Webサイト

facebook

X(旧Twitter)

Instagram



地域の伝統技術を活かして

現在進行形の
高校生の動きを
紹介する **高校生ing**

取材先 **鳥取県立
智頭農林高等学校**

藍染のれんを製作している

青滝 怜奈さん(生活環境科3年)



活動をとおしてご自身が
成長したなと感じる点は？

この活動は地域の人と関わることがメインというか、どういうものを作ってほしいかを汲み取りながら作っていかないといけません。話し合いをして気持ちを汲み取るのは難しいことですが、そういった視点を意識するようになりました。



現在どのような活動をしていますか？

現在は地元の藍染職人の方(企業組合 藍染工房ちずぶる一)に色々な技法を教えてもらいながら、町内にある企業と宿泊施設で利用してもらうためののれんを作成しています。

デザイン画を何個か作り、それを相手方に見てもらって修正をし、デザインを固めていきました。今は布に下書きをして、本番に向けて部分的に染めていく練習をしている段階です。

この活動をはじめた
きっかけは？

高校の体験入学の時に藍染のコースを見学して、マスクを染めたのですが、それが楽しかったので、入学してこの藍染のコースを選びました。



今後について

文化祭や『ちのりんショップ』*で実際に藍染作品を販売することがあります。そこでお客様が自分の染めたものを「いいね」って言ってくれた時はすごく嬉しいです。言葉は無くても、お会計されるのを見るだけでも良くて思ってもらえたんだなってちょっと嬉しくなりますね。

だから、現在作成中ののれんもそれを見てくださった方が、智頭の藍染に興味を持ってもらうきっかけになれば嬉しいです。

依頼者さんがいいなって思ってくれるようなのれんを作れるように、いろんな技法もたくさん試しながら頑張っていきたいです。

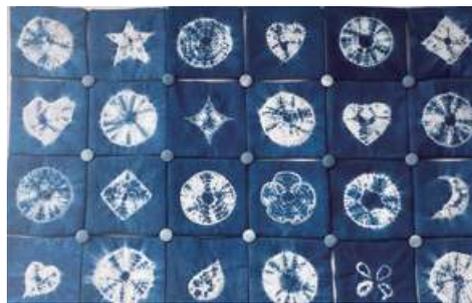
*『ちのりんショップ』とは？

智頭農林高校の生徒が運営するお店です。月に1回程度、生徒がつくった野菜や加工品、また地域の方がつくられた特産品を販売しています。

藍染の魅力を教えてください

藍染は人の手で染めるものなので、染める人によって染まり方が違うんです。丁寧に満遍なくやらないと上手く染まりませんし、同じようにやっても、人によって濃さや色の染まり方が違うところが魅力の一つかなって思っています。

それから頑張ったら頑張った分だけ染まり方が変わってきます。染めた後の作品が「頑張ったよ」っていうのを教えてくれる気がして、今回はこれだけ頑張ったんだっていうのを感じながら作成しています。



智頭の魅力アップ

智頭の活性化を高校生の目線で企画・提案・実践する「智頭宿魅力アッププロジェクト」において藍染のれんと格子戸を製作している学生の皆さんにそれぞれお話を聞きました。

格子戸

の製作をしている

村田 護さん(左)
(森林科学科3年)

石場 昴さん(中央)
(森林科学科3年)

坂本 陽基さん(右)
(森林科学科3年)



どのように製作していくのですか？

村田さん:今は格子を設置してくれる方の所に行って、寸法を測り、それを設計図に移して、部品の加工をしている段階です。今はひたすら削って整える作業をしています。

デザインなどは技術指導をしてくださるプロの方が考えてくださいますが、設置して下さるお宅の方の要望もお聞きしながらつくっています。

最初は削る作業も難しかったですし、プロの方が作り方を説明してくださるのですが、専門用語とかが全然分からなかったです。

坂本さん:木材も最初4メートルぐらいのものから切り出すので、どう持ち運んだらいいか、どこに置いたらいいかも分からず大変でした。



今後について

村田さん:今でも大変なこともあります。楽しくて、やりたいなっていう気持ちの方が強くなってきました。この3人での活動も徐々に息が合ってきて、言わなくてもサポートし合えるようになってきました。

最終的には地域の人に笑顔で「ありがとうございます」と言ってもらえると嬉しいので、完成したときにそう言ってもらえるように引き続き格子づくりを頑張っていきたいです。



現在どのような活動をしていますか？

村田さん:今は3人のメンバーで智頭町内の景観づくりに向けて、お家に設置してもらうための格子を製作しています。



この活動をはじめたきっかけは？

村田さん:格子づくりに関わるようになったのは先生に声をかけてもらったのがきっかけです。

最初は声をかけられて嫌々だったんですけど、なんで選ばれたのかって考えた時に、先生が自分の実力を認めてくれている部分があるのかなと思ったら嬉しくて、そこからやる気が出てきました。

坂本さん:自分もまさか格子づくりをするなんて思っていませんでした。でも、せっかくだしやってみようと思ったのと、もともと何か地域に貢献できることがないかなと考えていたので参加することにしました。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs:持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)
2030年までに達成すべき17の国際社会共通の目標
169のターゲットで構成

当センターは、SDGsに取り組む個人、団体等の情報交換・発信の場となる、「とっとりSDGsプラットフォーム」の事務局として、SDGsを推進しています。



会員随時
募集中!



<https://sdgsnwt.jimdofree.com/>



編集後記

県内全市町村を会場に「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」が開催される。全国から多くの選手やその家族が訪れる。地域でのおもてなしや大会運営に多くのボランティアも参加する。大会を通じた人と人との交流が、今後の地域の活性化につながっていくことを期待している。
(小林 綾子)

てとり「とっとり」はとっとり県民活動活性化センターの愛称です。

発行：公益財団法人 とっとり県民活動活性化センター

発行人：毛利 葉

編集人：小林 綾子

取材・編集：藤田 和俊（合同会社僕ら）、寺坂 純子、椿 善裕、池淵 菜美、
谷 祐基、世瀬 あけみ、山部 さおり

写真：藤田 和俊（合同会社僕ら）

写真提供：一般社団法人にちなんスポーツクラブ、NPO法人鹿の助スポーツクラブ、
NPO法人倉北ユナイテッド、NPO法人米子ローイング協会、鳥取県立智頭農林高等学校

デザイン：山本印刷株式会社



「とっとり」
バックナンバー
はこちらから。

2024年10月11日発行(第21号)

お問合せ/公益財団法人 とっとり県民活動活性化センター URL <https://tottori-katsu.net/>
〒682-0023 鳥取県倉吉市山根557-1 パープルタウン2階
TEL 0858-24-6460 FAX 0858-24-6470 E-mail info@tottori-katsu.net